

Topic 80

サステナビリティと環境浄化 (Sustainability in Remediation)

昨年 11 月にサンフランシスコで開催された RTM 会議で、デュボン社の社内浄化グループの人から標題の発表がありました。新しい動きですので紹介しましょう。

同社は、浄化方法を選択するときに、下に掲げるいくつかの観点から評価を行っています。

- **Safety** (安全性) : 安全衛生上の暴露は最小限となるか?
- **Risk Reduction** (リスクの低減) : 人の健康や環境を保護できるか?
- **Regulatory** (法規制) : 敷地外への汚染の移行をコントロールできるか? プルームを安定化させることができるか?
- **Public Relations** (周辺への説明) : 前向きな関係を維持することができるか?
- **Business Risks** (ビジネスリスク) : 発生させない、あるいは最小限にすることが可能か?
- **Technical** (技術面) : 長期間有効か? 維持管理が必要となるか?
- **Implementation cost** (費用面) : 費用は最小限に、かつ予想範囲に落ち着くか?

そこに、8 番目の観点として「**Sustainability**」をいれ、環境に対する正味の影響も考えようというわけです。

たとえば、各浄化方法を評価するためのインプット情報として、排出される CO2 の量 (トン)、作業員が暴露をうける延べ時間、輸送にかかるマイル数 (highway miles)、においのレベルや PM10 (ディーゼルエンジンからの排出) 量などをもとめています。また、省エネ、資源の再利用や再生可能エネルギーの利用といった側面も考慮に入れているようです。そして、定量的な方法で一番グリーンな (greenest) な浄化方法をえらぶ、のだそうです。

最終的な浄化方法の選択には、行政や周辺関係者との議論をかさねることが必須重要で、結果は場所によってそれぞれ異なるのが普通だとのこと。つまり、ある一つの方法を正当化するための理由として **Sustainability** を持ち出してきたわけではありません。有害物質を現地に残したときの言い訳ではないよ、ということでしょう。

この「**Sustainable Remediation**」は、来る 5 月 19~22 日にアメリカ西海岸のモントレイで開催されるバツェルの会議でもトピックとしてとりあげられ、パネルディスカッションやポスターセッション等でディスカッションが行われる予定です。また、それより先、5 月のゴールデンウィークにデトロイトで開催される全米ブラウンフィールド会議でも関連する発表が行われます。

2006 年 11 月に、**Sustainable Remediation Forum (SuRF)** の初回のミーティングがデュボン社の声かけで始まり、企業だけでなく、政府機関、大学、環境コンサルタント、NGO などがあつまりました。海を越えたヨーロッパへもその輪が広がっています。静かに熱いうごきが始まっているようです。

▼参考情報

<http://www.brownfields2008.org/en/speaker.bio.aspx?id=21897> (デトロイトの BF2008 会議での関連情報)

<http://www.battelle.org/Conferences/chlorinated/index.aspx> (バツェルの会議)

<http://www.rtmcomm.com/rtmcomm/conferences.php?year=2007> (RTM 会議)

“The Future that has already happened”

「すでに起こった未来」は、経営学の神様といわれているピータードラッカーが言ったことばです。彼の著書である「創造する経営者」(ダイヤモンド社(2007); 原著は“Managing for Results” (1964))

の 237 ページに、「ほかの産業、ほかの国、ほかの市場」「これらのものに目を配り、「われわれの産業、国、市場を変える可能性のあることは起こっていないか」を考えなければならない。」とあります。

アメリカでブラウンフィールドは、わたしがそのことばをはじめて知った 1994 年からこれまでに、社会的にも、経済的にも、技術的にも、とてもおおきく変化してきました。これは日本のなにかを大きく変える可能性をもったものなのではないか？ というのが、このメルマの底流にある、私の思いです。

BF 再開発の壁を壊したのは、従来の職務（職業）テリトリーから外に踏み出したプロフェッショナルたち、そして階層やセクションを意識しながらも地域の繁栄をめざして前向きに取り組んだ地方自治体のひとたちでした。メルマは、わたしにとって、これらを学んで、考える場となりました。

メルマは今回で一段落です。アメリカ各州の VCP（自発的浄化プログラム）を歴史背景もふくめて掘り起こし、そしていま一番ホットな Sustainability をめぐる BF の新しい展開にまで追いつくことができました。「すでに起こった未来」が日本で、いつどんな形で起こるのか楽しみです。

坂野